

平成 18 年度第 1 回 ExTEND2005 化学物質の内分泌かく乱作用 に関する検討会 議事要旨（案）（一部抜粋）

日時：平成 18 年 7 月 10 日（水）14:00 - 16:00

場所：経済産業省別館 9 階 第 944 号会議室

主席委員：鈴木継美（座長）有田芳子、井上達、岩本公宏、上路雅子、北野大、
小出重幸、崎田裕子、佐藤洋、高橋道人、立川涼、遠山 千春、渡邊信
事務局：上家環境安全課長他

議題：

- 1 作用・影響評価結果について
- 2 国際協力関係事業について
- 3 リスクコミュニケーションの推進について
- 4 基盤的研究の推進について
- 5 野生生物の生物学的知見収集について
- 6 その他

・議事要旨（議題 3 リスクコミュニケーションの推進について 一部抜粋）

以下の内容について、資料に沿って事務局より説明・報告をおこなった後、質疑応答をおこなった。

平成17年度第2回の検討会の議事報告をおこなった。

平成17年度のホームページの運用並びに更新の実績報告（6月末時点）をおこなった。

平成18年度ホームページの改善状況について報告をおこなった。

第8回国際シンポジウムの報告の後、第9回国際シンポジウムの計画について説明をおこなった。

ExTEND 野生生物観察隊について、平成17年度の報告の後、平成18年度の計画・実施状況について説明をおこなった。

(1) 第8回国際シンポジウムの報告の後、第9回国際シンポジウムの計画について説明を行った。

- ・今後のシンポジウムでは内分泌かく乱作用問題は外して、化学物質全般に関するシンポジウムにしていくのか。

(環境省) 内分泌かく乱作用問題も含め、化学物質全体について、情報提供する場に
発
展させていきたい。

- ・一般市民を代表するパネリストが、一般市民の質問をきちんと伝えられるかどうか
重要である。

(環境省) パネリストに一般の人たちを代表する人をいれなければならないということ
も含めて、新年度に入って詰めたい。

- ・釧路で開催するということの意味を一般のパネルディスカッションの中に入れられ
ないのか、テーマがあまり集中したものになると何が何だか分からないということにな
ってしまう。

(環境省) 地元に着したような方のご参加をいただくべきと考えている。環境省
の取組の展示を充実させていきたい。

- ・リスク評価がどのようになっているのかを説明していただけたらいいのかもしれない。

(環境省) 全体的なリスク評価の専門家や、毒性試験は内分泌かく乱作用に焦点を
当てた試験を実際にやった方に、説明してもらうのがいいのではと考えている。

(2) ホームページについて現在運用しているものを提示しながら報告を行った。

- ・タイトルは非常に重要。英語のタイトルでは分かりにくい。
- ・研究成果のページの前など、各トピックの前に数行の要約があった方がよい。
- ・リンクを貼る方法を掲載した方がよい。
- ・色々な意見をバランス良く載せることが必要であるが、その判断は誰がするのか。

(環境省) HP掲載のルールについてここで決定していただきたい。

(座長)

本検討会の委員本人、その他関連するEXTEND2005の事業に関わる委員、委員の推薦
者、については原則掲載。

その他の方からの原稿については本検討会委員にメールにて掲載の了承を得る。

A4で1枚の分量と原稿の依頼はするが、いただいた原稿は修正せず原文のまま掲載
する。

(3) 平成17年度身近な野生生物の観察事業の成果と、3月25日/26日に開催した、

こどもエコクラブ全国フェスティバルでの事業発表について報告を行った。

- ・ 関心を持ってもらうこと、継続して行うことが必要である。
- ・ EXTEND2005 の枠の中で目標をどこに持って行くのか。

（環境省）当面はどのような風に取り組む場面があるのかを見ていくと同時に、既存の体制の支援を行う。

（４）当該関連刊行出版物（チビコト）について報告を行った。

- ・ （商業誌ではあるが）もっと色々な意見を紹介していくよう努めるべきではなかったか。
- ・ （商業誌を活用したことは）一般の人に関心を持ってもらうのには良かったのではないか。
- ・ もっとさまざまなメディアを活用するべきである。

（環境省）いろいろなメディアから企画が持ち込まれれば、積極的に対応していきたい。

以上

鈴木座長 これまでのところでご質問、ご意見はございますか。

崎田委員 ホームページを大変熱心に開発していただいているようで、うれしいなと思っています。特にアクセス件数が去年の後半になって非常に増えている。この辺の要因をどういうふう考えていらっしゃるか教えていただきたいと思うのですが、皆さんのいろいろな検索エンジンのつくり方とか、広報が行き届いたということなのか、特にアクセスの増えているテーマがあるとか、その辺の様子を教えていただきたいなと思います。

実はホームページのアンケート、リ - 2 - 1 参考 1 の資料でアンケートというのがあったのでそれを拝見していたのですが、有効回答数が 7 件なんです。ちょっと寂しいものがあります。この辺の取り方というものもあると思うので、アクセス件数が急激に増えているのと、その辺の落差に関して今どんなふうにお考えでいらっしゃるか伺えればなと思います。

鈴木座長 これは事務局にお答え願う前に北野さんから。

北野委員 一つは崎田委員ご指摘のアクセス件数が非常に増えたということ、昨年 11 月から増えてきているんですね。例のシンポジウムをやったのは 12 月でしたね。その辺の広報が聞いたのかなどと思っているんですがいかがでしょう。それで少し伸びてきて、1 月から少し落ちてきたという。

ただ、分科会の各委員のご指摘で大分改良していただきましたのでわかりやすいホームページになってきたと思っております。そういう点が増えてきた大きな理由だと思っ

ておりますが、たまたまこのシンポジウム。これは4月以降は出ていないのですが、4月1日にNHKで例の沖縄のシンポジウムの放映がありましたので、4月1日以降は少しまた増えているかなと期待しております。

崎田委員 アクセス件数は増えたんですが、アンケートに答えてくださるような方はあまり多くないという、もう少し関心がきちんと定着してくださるといいなという感じがいたします。

鈴木座長 これは難しい。有田さん、何かいい提案はありますか。

有田委員 もちろんシンポジウムの件もあると思うんですが、チビコト、あれがかなり評判にいろいろな意味でなっているので、それで関心が高くなっているかなと思うんです。

鈴木座長 そのチビコト、僕に教えてください。

有田委員 一つ残念なのはそこの対談がホームページ上では続くとなったまま、続きが出ていないのはあれはどうしてなのでしょうというのを今日本当は質問したかったんです。ホームページが途中で終わっているんですが、何か意味があるのでしょうか。

環境安全課長 先ほど木阪からもご報告しましたが、常にエッセーをいただいているものもございますし、できれば対談等も組んでいきたいんですが、全く別の次元の話で恐縮ですが、契約関係の整理ができないために、載せたり、次へ進むということができないでおります。

入札のルールができ、入札をして引継がうまくできたらできるだけ早くいただいている原稿は掲載させていただきたいと思っております。

それから、できればコラム執筆を依頼していて、また原稿をいただいていない先生方でスケジュールが合えば対談をしていただくとか、そういうことも考えていきたいと考えて、予定というか、計画はしております。

鈴木座長 できるだけ早く体制が整備されるといいですね。

この話はこのぐらいして先へいきましようか。

遠山委員 ホームページの件ですが、今ホームページと言われているのは環境省のほうのいわゆる各省庁並びにホームページではなくて、どこかに委託をしてつくっているほうのホームページだと思うのですが、二つ使い分けるのはそれはそれでいいとは思いますが、私の意見としては環境省の基本的な政策とか意見とか、ミッションステートメントに関する部分、要するに大事なことにしましては正々堂々と環境省のホームページで出す。それをわかりやすくするために民間でホームページを作っている会社が持っているいろいろなノウハウを使って、もうちょっと柔らかい形で政府のほうのホームページをつくっていただくというふうにしていただきたい。

あとはコラムとか対談とか、いろいろな方がいろいろな意見を言うのは環境省があえてやる必要は無い。いろいろな媒体でいろいろする場もあるわけですから、それはそれで否定はしませんが、大事なことは民間の商業紙などを使って商業誌に環境省のロゴを出してまでするのではなくて、むしろそれが環境省のミッションとしての表現をしたいのであれば

環境省の本来のホームページをもうちょっとわかりやすくしてそこに出すというふうにしていただいたほうがすっきりするというのが意見です。

環境安全課長 それに関しましては、本日の検討会の議事録もそうですし、資料もそうですが、環境省として出しているものは今遠山先生おっしゃった環境省のホームページに全部、ExTENDの経緯、パブコメの結果等も含めてすべて掲載をしております。

こちらのほうも契約関係諸般ありまして、それが整い次第できるだけわかりやすいページもつけるような努力をしていきたいと考えております。